

2020年 最新情報

## Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management (EPM) の価値の測定



# 2020年 DXの加速

コロナウイルスの脅威により、これまでの常識は揺らぎ、新たな課題が生まれ、そしてビジネスの状況は大きく一変しました。

しかし一方で、この脅威によって、進歩とイノベーションは多くの面で加速しました。企業が過去の回復（レジリエンス）から復活していく過程の中で、財務部門は成長回復と次に来たる変化への準備に注力しています。その一環として、クラウド対応のデジタル・テクノロジーの導入が挙げられます。

新たな調査によれば、Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management (EPM) は、プランニングや決算などの財務プロセスに多大な付加価値をもたらしていることがわかりました。

実際に、当社の「2020年のEPMの価値」の調査において、クラウドEPMお客様の85%が、パンデミック時にクラウドの利用により、多くの価値を得られたと回答し、最大のメリットの1つとして、より効率的で優れた財務決算の実現を挙げています。

私たちの調査は、1,500人以上のプロフェッショナルを対象に行われました。この対象には、Oracle Cloud EPMをすでに導入済みのお客様、移行検討中、そして当時はまだ移行する気がない、または移行する気はあるが進まないなど、さまざまな背景のお客様がいました。この調査は、2020年の第3四半期と第4四半期に実施されました。この調査には、世界の多くの地域の18以上の業種の企業で構成されており、さまざまな規模の企業が対象となっています。この中には、売上10億ドルを超える企業が34%含まれています。

調査対象者は財務およびIT部門のCレベルの幹部または一般社員であり、企業の財務プロセス、クラウド移行を阻む障壁、そしてディスラプティブな環境下でのクラウド移行によるメリットについての質問を行いました。クラウドEPMは、コロナウイルスのような異常事態の影響を分析し、財務のみならず、すべての事業部門の計画の迅速な連携（および再連携）を実現するものです。そして、これまで不十分とされていたスプレッドシートや従来のオンプレミスツール、ニッチソリューションに代わる選択肢となりうるものです。

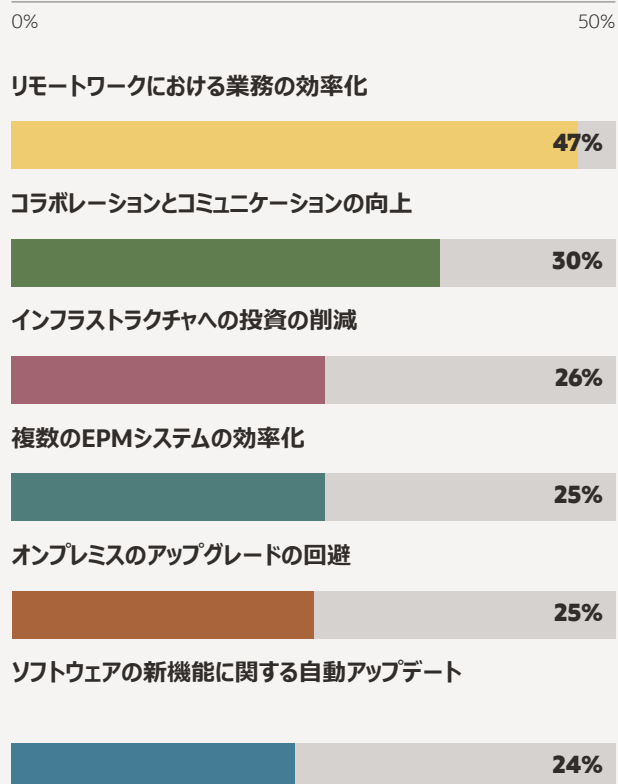
ここでは、激動の環境下で企業が機動力と競争力を維持する上で、Oracle Cloud EPMがどのように役立っているかを詳しく見ていきましょう。



## リモートワークとコラボレーションの推進

今年度の結果は、パンデミックが私たちの労働環境に大きな影響を及ぼしていることを明確に表しています。例年の調査結果とは異なり、EPMアプリケーションのOracle Cloud EPMへの移行理由として、リモートワーク環境の最適化、生産性とコラボレーションの向上が上位に挙げられました。その他の理由としては、複数のEPMシステムの効率化、インフラストラクチャへの投資の削減、自動アップデートの実現などが挙げられました。

### EPMアプリケーションをOracle Cloud EPMに移行したきっかけは何ですか？





# プランニングのプロセス

## コネクテッド・プランニングの 難しさとその重要性

プランニングとフォーキャストをクラウドEPMに移行していない企業にとって、2020年における最重要課題は、財務と業務が統合化されていない点であることがわかりました。

パンデミックによって、こうした問題や手動のスプレッドシートなどの課題が深刻なものになり、財務担当者間に危機感が生まれ、初めて人工知能などのクラウド対応のテクノロジーの重要性が認知されるようになりました。

## プランニングにおける 課題の上位



財務と業務が統合されていない



手動のプロセスやスプレッドシートを依然として使用している



人工知能のような高度な機能の未活用



# より良いプランニングがもたらす、より大きな成果

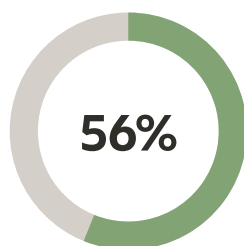
さまざまな業種や地域でプランニングを行っているお客様に、Oracle Cloud EPMへの移行による最大のメリット...を質問しました。その結果、移行によってさまざまな業務上のメリットがあることがわかりました。

最も多く挙げられたメリットとして、全体的なプランニン

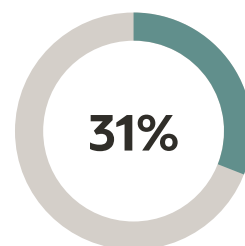
グ、レポートのためのデータ収集、月次予測の作成など、従来時間がかかっていたタスクが迅速に完了できるようになったことでした。

「予算編成や予測に費やす時間を短縮でき、他の重要な業務に時間を投入できるようになりました。」

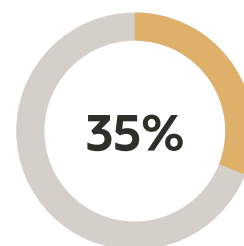
シニア・マネージャー、金融サービスの企業、北米



サイクルごとの計画作成日数の短縮



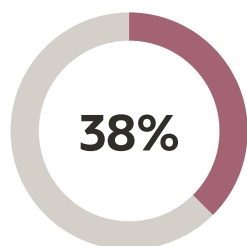
データ収集にかかる時間の短縮



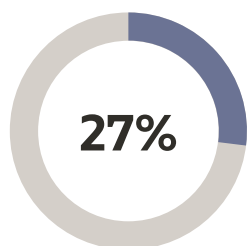
月次業績予想の作成に費やす時間の短縮



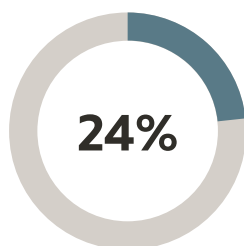
プランニング担当者が享受したメリットは、スピードだけではなく。また回答者は、プランニングと予測のアクティビティに対する**柔軟性と可視性**の向上、および事業部門間の連携が強化されたことも挙げています。



プランニングと予測プロセスの柔軟性の向上



プランニングと予測の可視性の向上



事業部門間の連携の強化

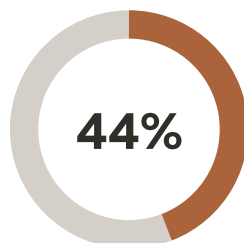
「Oracle Cloud EPM Planningによって、予算編成と予測プロセスにおけるすべての関係者間のコラボレーションとコミュニケーションが改善しました。」

ファイナンシャル・オペレーショナル・アナリスト、グローバルの再保険会社

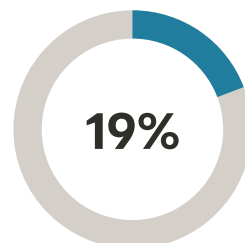
回答者の半数近くが、クラウド移行後に予測精度が向上したと回答しています。おそらくこれは、クラウド・ソリューションによってデータ分析をより自由にできる時間が増え、成果に基づくアクションにつながるからだと考えられます。

「Oracle Cloud EPM Planningによって効率的なデータ分析が可能となり、より良い意思決定を行う力が向上しました。」

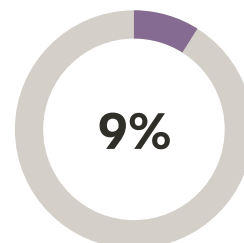
ファイナンシャル・レポーティング・マネージャー、産業用機械製造企業、北米



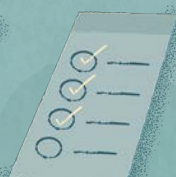
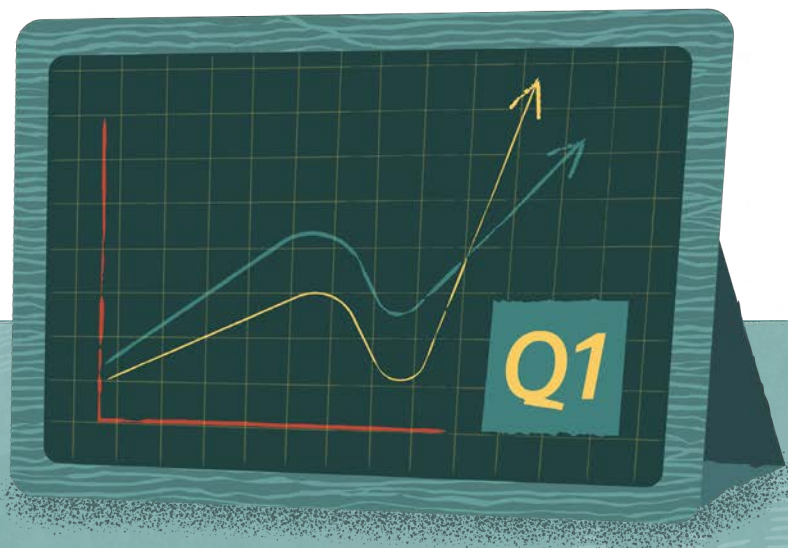
予測精度の向上



分析に費やす時間が増加



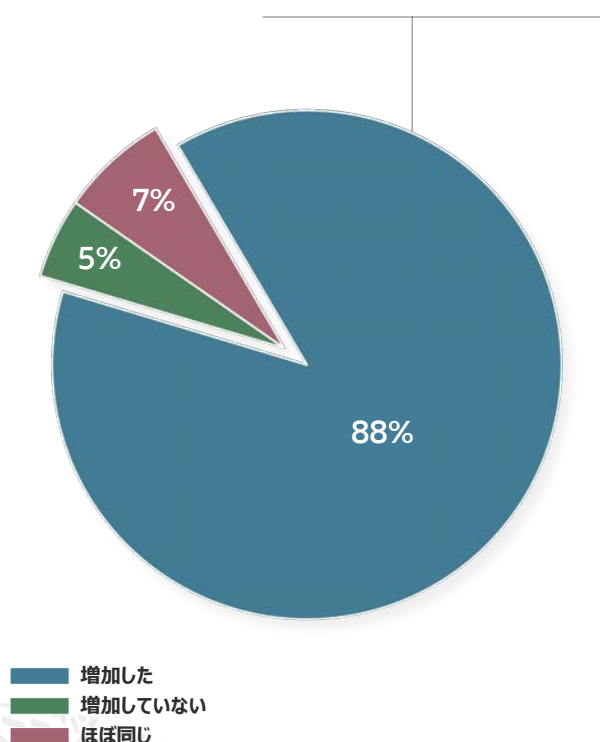
アクションの実行に費やす時間が増加



## パンデミックによるシナリオ・プランニングの頻度の変化

今年度は、特にパンデミックがもたらす経済的な不透明感を考慮し、クラウド移行後にお客様がどのように新しい機能やプロセスを導入したのかについても調査しました。Oracle Cloud EPMのお客様において、予測プランニングの導入は34%増加し、シナリオ・プランニングの導入は71%増加しました。

**88%** パンデミックの直接的な影響により、シナリオ・プランニングの使用が増加



回答者は具体的に、業種や地域、その他の要素にまたがるさまざまなシナリオを実行しました。

- 現金および流動性の見通しとリスク
- 売上リスク
- リスク緩和
- パンデミックによる保険事業の短期予測の変化
- 他国への移転価格
- 四半期ごとの収益予測

これらの結果は、財務に求められる役割の進化と、財務部門に適切なツールを装備することがいかに業績に直接影響を与えるかを表しています。





# 決算処理の プロセス

## 今後のキーワードは、自動化

クラウドEPMに移行していない企業において、決算プロセスに関する課題の上位に挙げられたのは、時代遅れのテクノロジーと非効率的なプロセスでした。

過去の調査においてもこうした課題は挙げられていましたが、2020年の調査では、より簡単で効率的な決算を阻害する唯一の要因として「自動化の欠如」を挙げる回答者がこれまで以上に多くなりました。

## 決算業務における 主な課題



自動化の欠如



古いソフトウェアやシステム



非効率な社内プロセス

決算処理を容易にするものとして  
最も多く挙げられたのは、「**自動化の推進**」でした。



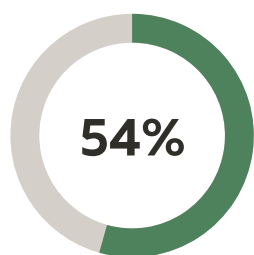


## クラウドによる、迅速かつ包括的な決算の実現

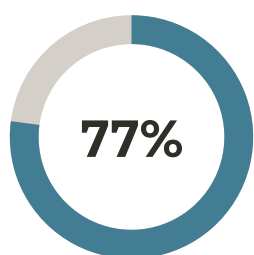
一方で、Oracle Cloud EPMの既存ユーザーは、クラウドのシステムの組込み機能によって効率化が実現でき、スプレッドシートの使用量が劇的に減少したと回答しています。多くのユーザーは自動化が効率的に実現できた要因として、会社間消去とトランザクション照合の両方におけるスプレッドシートの使用量の減少を挙げています。

また、財務連結と決算処理をOracle Cloud EPMに移行することで、時間とリソースを効率化できた点も大きなメリットとして挙げています。

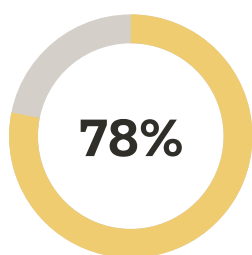
圧倒的多数の回答者が、1サイクルあたりの決算にかかる日数が短縮されたと回答しており、工数削減と機動力がその重要な要因としています。実際に、全回答者の84%が決算時間の短縮をメリットに挙げています。



トランザクション照合と自動化による効率性の向上



会社間消去のためのスプレッドシートの使用の減少



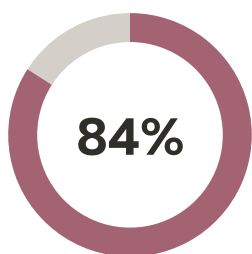
トランザクション照合のためのスプレッドシートの使用の減少

「自動照合、ワークフロー、承認、ダッシュボードに大変満足しています。」

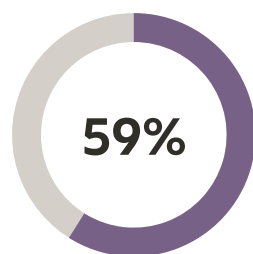
ディレクター、グローバルの金融サービス企業

「すべてがより速く、より信頼性の高いものになりました。」

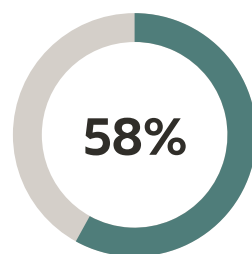
ディレクター、プロフェッショナル・サービス企業、北米



サイクルあたりの決算日数の短縮

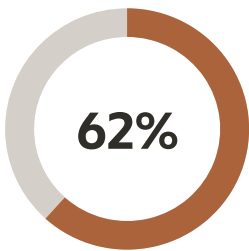


各種所要時間の短縮と俊敏性の実現

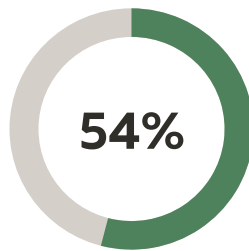


管理レポートの作成時間の短縮

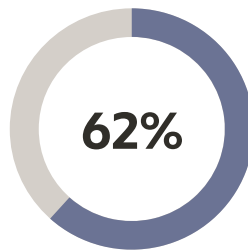
クラウドによる勘定科目照合も、さまざまなメリットをもたらします。Oracle Cloud EPMは、効率性の向上、工数削減、コスト削減に加えて、一貫性のある高品質なデータによりよくアクセスできるようになるため、監査の時間短縮にも寄与しました。さらに、クラウドベースのEPMによってプロセスが合理化され、手作業による調整業務が減るため、より柔軟な財務報告環境が実現できるようになります。また財務担当者は、決算期間中の可視性と追跡性が高まったと報告しています。



監査時間の短縮



効率性の向上



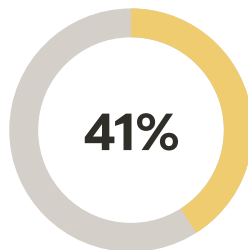
タスクとコストの削減

「今では、一元化されたりポジトリで標準化された照合プロセスを持てるようになりました。」

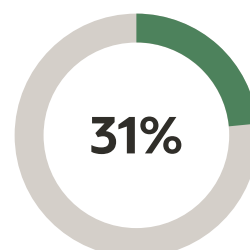
システム・スペシャリスト、  
公益事業会社、ヨーロッパ

「クラウドに移行してから、すべてが簡単になりました。」

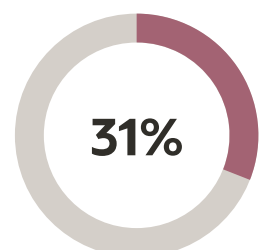
財務マネージャー、医療機器企業、  
オーストラリア



手作業による調整業務の削減



財務報告の柔軟性の向上



決算期をまたいだ可視性と追跡性の実現

# 税務やレポート、 コスト管理の改善

税務報告プロセスをクラウドに移行した企業の80%が、6か月以内に以下のような効果を実感しています。

- 税務戦略のより効果的な実行
- 移転価格とコンプライアンスの自動化の改善
- 移転価格のデータの透明性の向上

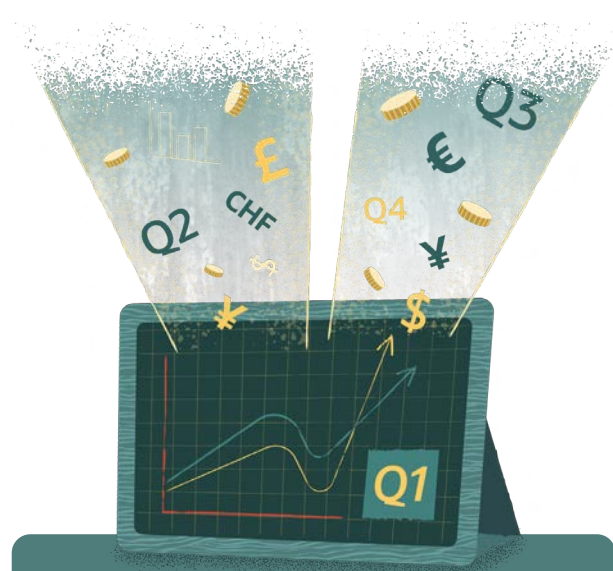
レポート全体に関して言えば、数字にまつわる説明（ナラティブ）を提供するため、レポートを読む人は

その背景を理解することができます。こうした対応は、手作業だと時間のかかる作業です。Oracle Cloud EPMでナラティブ・レポートの自動化に注力したお客様の93%が、4か月以内に効果を実感しています。主なメリットは以下のとおりです。

- 規制当局への提出書類や年次報告書など、決算報告書の定義、作成、配布に要する時間の短縮
- セキュリティの向上により、最も重要で機密性の高いデータを許可されたユーザのみに表示
- コラボレーションと正確な数値により、可能な限り精緻な全体像の把握
- すべてのフェーズにおけるレポートの進捗とステータスの追跡が可能

パンデミック下で、収益やコスト管理プロセスをクラウドに移行した企業もありました。

ユースケースとしては、87%が、シェアード・サービスの割当て/コスト計算に、78%が、自社が販売するさま



「Oracle Cloud EPMによって、より信頼性が高い形で、税務報告プロセスに要する時間を短縮できます。」

財務アナリスト、ライフ・サイエンス企業、ヨーロッパ

「Oracle Cloud EPMには、ワークフローを含むレポート向けの単一のリポジトリがあります。」

EVP、教育およびリサーチ企業、北米

ざまな製品やサービスのコスト把握に重点を置いていました。また、70%が移転価格の算出に収益性や原価管理の移転価格の算出に利用していました。各ユースケースにおいて、クラウドEPMの収益性・原価管理への注力によって得られたメリットは以下の通りです。

- 正確性
- スピード
- コスト削減
- コストの明確なトレーサビリティ
- プロセスの簡素化

「当社における主なメリットは、プロセスとデータの収集、予測、管理がシンプルになったことです。」

ファイナンス・アナリスト、  
グローバル金融サービス企業





# 未来を見据えた柔軟な対応を

これまでにないほどのスピードと機動力が重視される時代、それがまさしく2020年に私たちが経験してきたことなのです。Oracle Cloud EPMを導入した財務部門は、つながりのないプランニングや、スプレッドシートの手動作業、複雑な決算プロセスから解放され、より迅速かつ正確なビジネス上の意思決定と、必要に応じた戦略対応を行うことができました。こうした推進力は、パンデミック後の世界でビジネスを前進させる上で、今後も重要なものとなることでしょう。

## Oracle Cloud EPMへの移行を検討する

[詳細はこちら](#)



ORACLE

Copyright © 2021, Oracle and/or its affiliates.この文書は情報提供のみを目的として提供されており、ここに記載されている内容は予告なく変更される場合があります。この文書は、誤りのないことを保証するものではなく、口頭や法の指示によるいずれの場合も、販売可能性や特定用途への適合性について暗黙の保証や条件を含め、その他の保証や条件の対象となるものでもありません。当社はこの文書に関する一切の責任を放棄し、この文書による直接的または間接的な契約上の義務は生じないものとします。この文書は、いかなる形式や手段によっても、どのような目的でも事前の書面による承諾なく、電子的または機械的に再生または送信することを禁じます。OracleおよびJavaはOracleおよびその子会社、関連会社の登録商標です。その他の名称はそれぞれの会社の商標です。

